

36.5°C

この世には心に傷を負っている人があまりにたくさんいる。

悲しいことにその全ての人に寄り添い、傷を癒すことはできない。

それでも「せめて目の前の人たちだけでも助けたい。幸せであってほしい。」

という気持ちを持って人に寄り添うことは、とても尊くて大切だと私は思う。

たとえ「たった1人を助けたところで無駄じゃん。」

「それはエゴだし偽善だよ。」と言われても、

目の前の人にとって心の救いになる可能性が少しでもあるのなら

前述した気持ちやそれからなる行動には大いに意義があるのではないだろうか。

古来より人々は手を当てたその熱で他者の傷を癒していた。

いつか目の前に傷ついた人がいた時、

あなたのそのあたたかさで、その人を助けてあげられますように。

作品の手引き

この作品内では、過去に受けた被害や誰にも言えない心のわだかまりなど、

他の人が心の中から捨てたいと思った、心の「ゴミ」が散らばっています。

その中にはあなたが手を伸ばすことのできる「ゴミ」があるでしょう。

見つかりにくいそれを探して、広げ、

両手の平であたためてシワを伸ばし、

奥の棚に並べてください。

また、この作品では探すだけでなく自身の心の「ゴミ」を捨てることもできます。

右のテーブルにて記入し、丸めてこのゴミたちの中に捨てて行ってください。

* 作品全体像の写真撮影は可能ですが、記入された被害内容の撮影はご遠慮ください。

* 作品内には他者の被害体験が含まれます。精神的に大きく影響を受けやすい方はご注意ください。